

はるかな尾瀬

—目次—

- 02 特集 新常務理事インタビュー／事務局挨拶
- 04 現地情報 ビジターセンターへようこそ
- 05 原をわたる風だより
- 06 おこじょだより
- 07 尾瀬沼ビジターセンターで企画展示が開催中！
- 08 尾瀬ボランティア情報
- 09 自然環境保護ファンド「尾瀬紀行」のご紹介
- 10 尾瀬保護財団からのお知らせ



2022.7 vol.49
(公財)尾瀬保護財団



アヤメ平の池塘越しに至仏山を望む

特集

尾瀬保護財団 須田恵理子

新常務理事インタビュー

今年4月に就任した新常務理事は、環境省から群馬県に赴任し、県環境森林部長とグリーンイノベーション推進監を兼務しています。環境関係の三職を兼ね日々奔走する新常務理事の素顔に迫ります。

●子供の頃や学生時代の思い出についてお聞かせ下さい。

私は旧赤城村（現渋川市）出身で、自然豊かな環境で育ちました。環境に対して興味を持つようになったのは、そういう場所で生まれ育ったからという理由もあると思います。また小学生の頃にオゾン層保護のモントリオール議定書が採択されたことがとても印象に残っています。

大学は、文系理系両方学べる学部に興味を引かれ進学し、最終的には理系分野の研究に進みました。太陽系の内側のことであれば何でもありの研究室でしたが、私自身は山体崩壊（山崩れ）、中でも岩屑がんせつなだれという現象について研究しました。ですので、山へ行くとやはり地形が気になり、行く前にもこの山はどうやって出来たのだろうと、つい考えてしまいます。

大学時代を過ごした京都では、奈良や京都の寺社めぐりも堪能しました。朝、唐招提寺の御影堂と鑑真和上坐像の特別開帳のニュースを見て、その日は急遽「自主休講」にして奈良に行ったこともあります。歴史への興味が京都の大学に進学する後押しにもなったと思います。

●どうして環境省に就職されたのですか。

就職については、何となく研究者か公務員かというくらいのイメージしかありませんでした。大学在学中に気候変動枠組条約COP3が京都で開催され、これがかっかけて環境NGO（気候ネットワーク）でボランティア活動をしていたのですが、こうしたこともあり環境省とご縁があったのだと思います。専門性を活かすなら気象庁や国土地理院という選択肢もありましたが、大学の頃の自主的な活動が起点となり、環境省の仕事や現在に繋がりました。

●環境省のお仕事で印象に残っているものは

環境省では様々な分野の仕事に携わっていたのですが、どれもが印象に残っています。あえて選ぶとすれば、長期間

須田恵理子（すだ・えりこ）

群馬県渋川市出身。京都大学大学院人間・環境学研究科修士課程修了。環境省入省後、福島地方環境事務所除染対策第一課長や災害廃棄物対策室参事官補佐等を歴任。今年4月1日から現職。



●事務局長挨拶

はるかな尾瀬をご覧の皆様こんにちは。

2022年4月から事務局長になりました石井と申します。2010・11年

度に群馬県尾瀬保全推進室に在籍していました。

尾瀬の仕事を離れていた10年間の様子を聞き出すと、以前の課題で解決に向けて大きく進んだものもあり、尾瀬関係者のご尽力に感謝申し上げます。一方で新しい課題も生じていて、これから尾瀬に関わる方々と一緒に取り組んでまいりたいと思います。

また、この約2年間は新型コロナウイルス感染症のために皆様の生活は大きく影響を受けたことと思います。尾瀬でも各種の取組の中止や入山者の減少などにより、自然を守る活動や地域社会・経済は大きな影響を受けました。私も残念ながらこの2年間尾瀬に行くことができずでした。

皆様におかれましては、感染防止対策を行っていただいた上で、ぜひ改めて尾瀬へご来訪いただき、ゆっくりと尾瀬の魅力を楽しんでいただければと思います。私もできるだけ尾瀬に行き、現地を見ながら対話を重ねて尾瀬の課題を一つひとつ解決できるよう取り組んでいきたいと思えます。今シーズンも尾瀬保護財団をどうぞよろしく願います。



石井年香 事務局長

にわたり現場事務所で携わっていたこともあり、福島県での除染対策でしょうか。事務所で担当をしている間に、帰還困難区域を除く地域の避難指示が解除されたことは、業務と密に関わっていたこともあり、よく覚えています。

●休日は何をして過ごしていますか

休日はまだ引越作業をしていて、残念ながら群馬で活動できていませんが、落ち着いたら登山や乗馬をしたいと思っています。インドアの趣味としては、高校時代に部活がきっかけで始めたコントラバスを弾いていて、群馬に移る前は市民オーケストラに参加していました。

●趣味が登山ということは、尾瀬には個人的にも行ったことがありますか

はい、初めて尾瀬に行ったのは、高校生のときです。尾瀬研修という学校の行事で、一年生の夏休みに希望者が2泊3日で尾瀬に行くというものでしたが、尾瀬沼、尾瀬ヶ原、至仏山登山を1日ずつという尾瀬三昧の内容でした。2回目は、大学時代、友人が群馬に遊びに来た際に日帰りです。また社会人になってからは、栃木勤務だった環境省の同期と一緒に檜枝岐村側から入って燧ヶ岳に登っています。環境省の福島事務所に勤務している間にも、「尾瀬は1回行くべきだ」と尾瀬未経験の事務所職員を誘うなどして何回か行きました。合計5、6回は行っていると思います。

●尾瀬の魅力はどこなところにあると思いますか

沢山ありますが、特に自然のバリエーションが豊かで、場所や季節によって様々な表情を見せてくれる点にあると思います。尾瀬沼と尾瀬ヶ原でも全く違い、これほど流れて尾瀬から水が無くならないのかと不思議に思うほど圧倒的な水量の三条ノ滝があり、さらに燧裏林道を歩いてみると生い茂る森林の中で尾瀬ヶ原や尾瀬沼とはまた違った雰囲気を楽しむことができます。そういった様々な自然があり、さらに登山も楽しめるのは、とても素晴らしいと思います。それだけに、尾瀬の自然に大きく影響を与えているニホンジカの食害については何とかしたい問題だと感じています。私の記憶にある中でさえも、目に見えてニッコウキスゲの様子が変わっています。ただ、対策に「これだ!」という決定打があるわけではなく、自然が相手の問題の解決へのアプローチの難しさを感じます。

また、山小屋が充実しているのも嬉しいポイントです。山小屋でお風呂や温泉に入れるというのは良い意味で山小屋らしくないというか、大きな魅力の1つだと感じています。

●機関誌の読者の方へ一言抱負をお願いします

尾瀬は木道や山小屋が整備されており、あまり登山経験などがない方でも比較的安全に自然を満喫できる場所です。一方、私の身近にもプライベートで数十回は尾瀬に行ったという人がいますが、繰り返し人を惹き付ける奥深さもあります。こうした尾瀬の魅力を、将来世代も含め更に多くの方に経験していただきたいと思っています。そのためには利用と保護のバランスを取ることが重要ですが、財団だけで全てできるわけではありません。尾瀬に関わる皆さんと一緒に様々な取組を進めていきたいと思っています。

(取材日…5月19日)

●次長挨拶

尾瀬保護財団事務局次長の星嘉紀と申します。当財団の役目は何かを考えてみました。

尾瀬の「尾」は動物の「しっぽ」の意味がありますが、「しっぽ」はバランスを取ったり体を支えたりするものです。バランスを取ったり体は、食事、仕事と生活、スポーツの攻守などにおいて、非常に重要です。

当財団は、尾瀬の自然を守ることと適正な利用に関して、釣り合い、調和を図ることが役目なのではないかと考えます。

持続可能な尾瀬の実現に向けて、関係者の皆様と一緒に取り組んでまいりますので、よろしくお願いたします。



財団事務局職員

尾瀬沼ビジターセンター

長らく工事中でしたが、昨年、新しい尾瀬沼ビジターセンターがオープンしました。館内に足を踏み入れると、新築らしい杉の香りがすることに気づかれると



新尾瀬沼ビジターセンター外観

思います。

昭和59年の尾瀬沼ビジターセンターから3代目となる建物です。

入口手前のテラスも以前よりかなり広くなったので、休憩等でより多くの方にご利用いただけだと思います。

利用者の皆様に、尾瀬の自然をより深く知っていただけるように、尾瀬沼ビジターセンターではシーズン(5月中旬から10月末)を通して様々なイベントや企画展示を実施しております。皆様にご好評の尾瀬の自然を解説するミニツアーは、午前と午後の毎日2回実施しています。



大江湿原と燧ヶ岳

それから、土日祝日の前夜19時からスライドショーも開いています。スライドショーでは、尾瀬国立公園にある山々の特徴や、尾瀬ヶ原や尾瀬沼周辺になぜ湿

原が多く出来たのかを理解していただいたり、半年を雪に覆われる中で可憐な花を咲かせる植物の秘密を説明したり、尾瀬の見所や、その折々の花などの説明を入れて、尾瀬に来ていただいた皆様にもっと深く尾瀬を知っていただけるように工夫しています。

その他、星空観望会、ナイトハイク、スライドショーの翌朝に行う「朝イチ観望会」なども実施しています。

5月から6月のミズバショウ、7月のニッコウキスゲ、そのついでに尾瀬沼ビジターセンターに訪れるということでも大歓迎です。

ぜひ実際に尾瀬を訪れて、全身で尾瀬を感じ取っていただきたいと願っています。

皆様にお会いできる日を楽しみにしております。

(阪路)



展示室の様子



案内カウンター

尾瀬山の鼻ビジターセンター

今年の尾瀬は積雪量がすごく、山の鼻ビジターセンター周辺でも例年の2倍~3倍くらいあったのではないかと推察します。こういう年は花



3月の積雪

の状況が良いと伝えられていますので、今年のミズバショウやワタスゲ、ニッコウキスゲなどの花期が楽しみです。

雪が多かったため除雪作業に苦労した年でしたが、5月16日に、無事、今年度の開所を迎えることができました。

山の鼻ビジターセンターの開所式は、新型コロナ



開所式の様子

ウイルスまん延防止のため令和2年は中止となり、昨年は規模を縮小し関係者のみの開催となりましたが、今年度は昨年より若干ですが参加

者も増え、関係者、ボランティアさん含め25名ほどで開催し、今年度の登山者や皆様の安全を祈願いたしました。

ビジターセンターの展示についても、内容をコロナ禍前に戻しつつ、感染対策を万全にして準備しております。

また、今年のゴールデンウィークは、至仏山に登られる入山者で山ノ鼻地区のキャンプ場が満杯になるほどでした。これはここ2年の間、見られなかった風景でしたので、今年の尾瀬は忙しくなるとい々と妄想しています。



今年の展示

皆さんがWithコロナを意識して行動できるようになると、更に行動範囲も広がりますので、そうやって通常の生活に戻る日が近くなればいいなと感じています。

そして、体調や装備を万全に整えていただき、是非、皆さんで尾瀬の自然を楽しんでください。

(西澤)

原をわたる風だより

山の鼻ビジターセンター所長の西澤です。今年には記録的な大雪に見舞われ、山ノ鼻周辺でも4m〜5mの積雪を観測いたしました。こういう年はお花が良いと言われていると思います。

昨年、一昨年は新型コロナウイルスの影響で、尾瀬の入山者数が記録的な減少となりましたが、来ることが叶わなかった方、来たくても我慢されてきた方々には是非お越しただけければと思います。

スタッフ一同、コロナ対策については万全を期して勤務しております。ご来場いただく皆さまにもご協力をいただき、尾瀬を安心して楽しんでいただければ幸いです。

(西澤 政春)

今シーズンで4年目の勤務となる坂上です。

昨年、一昨年とコロナ禍で尾瀬でも登山者数が



減少してしまいましたが、今年は回復する傾向が見られます。久しぶりに賑わう尾瀬が見られるのではないかと期待に胸が膨らみます。しかし登山者の増加に伴い、登山装備や登山の心得などの安全管理の啓発や傷病者の対応、ツキノワグマの追い払いなどの業務が重要になってきますので、改めて気を引き締めて業務に励んで参ります。

どうぞ今年も宜しくお願い致します。

(坂上 修司)

今年はず定通りの日程でスタートを切ることが出来ました。山の鼻ビジターセンター2年目となり、昨年コロナ禍対応でできなかった業務の分もプラスして、尾瀬に来られた皆さんに新鮮な尾瀬情報を発信していきたいと思えます。どうぞ宜しくお願い致します。

(新保 正利)

今年から尾瀬山の鼻ビジターセンターで勤務することになりました。尾瀬には残雪期に山スキーをしに至仏山に訪れたことはありますが、グリーンシーズンの尾瀬は初めてなのでとても楽しみです。花の名前や地名もまだよく知らないのですが、これから学び尾瀬を歩くことで知識や経験を積んでいきたいと思います。今までは利用する立場でしたが、今度は利用者にも有用な情報やホスピタリティを提供できるように努めたいと思えます。

(泉部 充)

初めて尾瀬にやって来た生粋の道産子です。河川の自然環境調査に長く携わっていましたが、山登りはあまり得意ではありません。防寒対策をしっかりしてきたつもりなのに予想以上の寒さで、さっそく風邪をひきました。旅行、自然観察、書道、フィットネスが趣味です。初体験の視点で

尾瀬の魅力を存分に発信していけたらいいなと思っています。まずは地名を覚えるところから。移りゆく尾瀬の自然・風景を満喫したいです。どうぞよろしくお願いたします。



(田原 さゆり)

窓から見える木立のバックは雪の白と空の青、まるで一枚の絵画のようです。山の鼻ビジターセンターの周りには、シウリザクラの木がたくさんあります。ここに至て約2週間、シウリザクラの紅い若葉が日に日に大きくなり、花が咲くのはいつかいつかと楽しみしています。今年度、初めて管理員になった未熟な私ですが、尾瀬に住んで、尾瀬の自然を体感しながら、その美しさを伝えるとともに自然環境を守る大切さを伝えていきたいと思います。

(渡辺 直子)

今回、初めてビジターセンターで勤務することになりました。

地元、片品出身ですが、高校を卒業してからは上京していたため、なかなか尾瀬に関わることができませんでした。今回Uターンで戻り、さっそく地元に貢献することができ嬉しく思います。今シーズンは、皆さんに色々教えていただきながら、尾瀬についての知識を深め、ケガには十分気を

つけて過ごしていきたいです。よろしくお願いたします。

(笠原 枝理)

私は長年尾瀬に関わり、尾瀬の四季を見てきました。それぞれの季節で綺麗な風景であったり、厳しさも体験してきました。その中で自分が好きな季節はやはり日々変化していく様子が見られる春(5月)です。林内には多くの残雪の中、沢には雪解け水が激流となり流れ、樹々の芽は日毎に膨らみ初め山々が新緑となっていく。一方尾瀬ヶ原では沢水で湿原が出た箇所は、小さいミズバショウが咲き始めています。

そんな自然豊かな尾瀬に来られるハイカーの皆さん、尾瀬にお越しの際は身支度をしっかりと来て下さい。(笹原 宗利)



山の鼻ビジターセンター職員

おじよだより

半年だけと思ってビジターセンターで働きはじめましたが、いつの間にか10年になりました。いろいろ出来ていないことはかりで、皆さんにご迷惑をおかけしております。

昨年、新尾瀨沼ビジターセンターがオープンとなりました。建物は新しくなりましたが、私はどう変わったのかと自問しております。人間は、建物を建て替えるように、一気に変わることは難しいと思いますが、向上できるように日々頑張ります。ビジターセンターにお立ち寄りの際には、お気軽に声をかけてください。お待ちしております。

(阪路 善彦)



今年の尾瀨は雪融けが遅いスタートとなりました。ミズバショウの様には目立ちませんが大江湿原ではワタスゲのお花がこちらで咲いています。今年、ワタスゲの果穂は大江湿原をどの様に彩ってくれるでしょうか？ 年により異なる表情を見せる尾瀨ですが、尾瀨の様々な魅力を、尾瀨を訪れる皆さんに少しでもお伝えできればと思います。

3回目の尾瀨沼ビジターセンター管理員

を務めさせて頂きます。よろしくお願いいたします。

(齋藤 孝)

夜もすがら春来る逢瀬を待ちわびておぼる眼に早幾年

尾瀨に行く日はいつかと待ちわび、気づけばとうに春はきて、

寝ほけ眼をこすればそこは尾瀨であつという間に10年の月日が経ちました。

中国の古典に「邯鄲の枕」という話がありますが、尾瀨での半年間の生活は正にその通りです。尾瀨沼に自分を映すたび、尾瀨や自分を支えてくれる多くの人々がいる事の感謝を忘れずにいたいと思います。

(川上 藍)

小鳥の囀りに目を覚まされ、カーテンを開けると、燧ヶ岳の山頂が朝日を受け赤く染まっています。

尾瀨の朝は毎日、感動的な風景で始まります。尾瀨通いが高じて、ついには尾瀨に住むようになり

ました。今年で管理員2年目になります。勤務

が休みの日は、長いことお世話になつて見晴の松枝岐小屋さんで過ごして

います。尾瀨を



訪れた皆様と楽しい時間を共有できれば嬉しいです。

(玉田 英可)

こんにちは。1年目の管理員として勤務いたします。群馬県出身、東京都摩地区在住で奥多摩の山を主として登っていました。人生が長くなり「山で暮らす」ことは憧れでした。日本の山岳地域でも圧倒的なエネルギーの宝庫、「尾瀨」で仕事・生活ができることは夢のようです。10月末まで、早く仕事・生活に適応し、移りゆく季節を感じながら勉強し、皆様に役立つ情報を提供できるような微力ながら努めてゆきたいと思ひます。

(青木 敏彦)

尾瀨沼ビジターセンター1年目の馬場です。会津若松出身の48歳で、頭を使うことよりも、どちらかといえば体を動かすことの方が得意です。山が好きで自然が好きで、念願の尾瀨での仕事が始まり感慨ひとしおです。尾瀨での生活は毎日が新鮮で、目に入る物全てが感動を与えてくれます。私自身も日々勉強しながら、尾瀨の素晴らしさとともに環境保護の重要性を伝えていきたいと思ひています。よろしくお願ひいたします。

(馬場 大祐)

今年尾瀨沼ビジターセンター1年目の奥と申します。

初めて尾瀨に来て以来、尾瀨にすっかり魅了され、沢山の自然が残り、毎日違う表情を見せるこの素晴らしい尾瀨をより多くの人に知ってもらいたいと思うようになりました。

今年はその念願の尾瀨に勤務ということ

で、尾瀨に来られる方々に尾瀨の魅力を感じていただき、また自然保護等の観点にも興味を持っていただけるよう努めていきたいと思ひます。

(奥 美絵)

昨年度大学院を修了し、今年から尾瀨沼ビジターセンターで勤務となった八幡直輝と申します。地元岩手を離れ尾瀨で暮らしはじめて、毎日変わる景色の変化や様々な人との出会いにワクワクする毎日を過ごしております。学生時代に学んだ環境教育・森林教育の経験を生かして来訪者の方々に「また尾瀨に行きたいな」と思っていただけのような環境や情報を提供できるように精進したいと思ひます。1年間よろしくお願ひいたします。

(八幡 直輝)



尾瀨沼ビジターセンター職員

環境省尾瀬沼ビジターセンターで 福島県尾瀬保護調査会 企画展示が開催中です!



場 所／環境省尾瀬沼ビジターセンター

期 間／6月11日(土)～10月中旬

内 容／●モリアブラコウモリの紹介
●訪花昆虫調査の紹介
●福島県尾瀬保護調査会の紹介

標本展示／●モリアブラコウモリ
●ニホンモモンガ全身骨格標本
●小型哺乳類

福島県尾瀬保護調査会とは?

かつての尾瀬は木道の整備も不十分であり、ハイカーの自由な歩行により湿原の荒廃が進んでいました。そうした荒廃した湿原を回復させることを主な目的として昭和41年(1966)に誕生したのが、「福島県尾瀬保護調査会」です。尾瀬保護調査会の活動には、福島県環境保全基金を活用しています。

- 昨年度、大江湿原と浅湖湿原の間の鹿防柵に沿って10台のセンサーカメラを設置し、ニホンジカの出現頻度を調査しました。その調査で撮影したニホンジカの動画をご覧いただけます。



YouTubeにリンク

尾瀬ボランティア情報

このコーナーでは尾瀬ボランティアの活動を紹介します。

研究見本園の植生保護柵(シカ柵)を設置しました

今年は雪が多く、5月中旬でも山ノ鼻周辺はほとんど雪に覆われていましたが、水辺では、小さなミズバショウが咲き始めていました。

ニホンジカを目撃情報が徐々に出てくる中、企業ボランティアの皆さんの御協力のもと、研究見本園の大規模植生保護柵を設置しました。参加した皆さんのおかげで、予定よりも早く設置を終えることができました。

研究見本園の植生保護柵はシーズン終了間際まで設置し、越冬に向けて撤去します。撤去作業は、尾瀬ボランティアの皆さんに御協力をお願いする予定です。



研究見本園の植生保護柵

入山口啓発活動実施中！

ミズバショウが見頃を迎えた5月末～6月初めの週末、尾瀬ヶ原や尾瀬沼周辺は多くの人で賑わっていました。個人で訪れる方やツアー参加者、学校行事の一環として尾瀬に入る学生も多く見られました。お天気にも恵まれ、皆さんそれぞれに尾瀬を楽しんでいる様子でした。

そんな中、各入山口では尾瀬ボランティアによる啓発活動を実施しました。木道の状況や種子落としマットの利用やごみの持ち帰りの呼びかけ、軽装者への注意喚起などの積極的な啓発活動に加え、ミズバショウの咲き具合や見どころの情報交換など入山者との交流ができました。

コロナ禍ははまだ終息には至ってありませんが、今年はある範囲で尾瀬ボランティア活動を実施します。尾瀬ボランティアの皆さんの積極的な活動をお待ちしています。



入山口啓発活動の様子

外来種除去作業(小沢平登山口)を行います。

ボランティア活動メニューとしての外来種除去作業について、群馬県側は対象が少ないため一旦休止としております。一方で、小沢平登山口のオオハンゴンソウは繁殖力が強く、定期的な除去作業が必要な状況です。現在、下記日程での実施を予定しております。現地の繁茂状況次第では、その他の日程でも作業を実施します。

実施日：7月30日(土) 9:00～12:00 小沢平登山口駐車場 集合・解散

「ありがとう尾瀬清掃活動」を実施します

四季折々の美しい表情を持つ尾瀬に、今シーズンの感謝と来シーズンの期待を込めて、清掃活動を実施します。シーズンの締めくくりの尾瀬ボランティア活動です。

実施日：①10月8日(土) ②10月16日(日)
実施場所：①尾瀬ヶ原、尾瀬沼周辺 ②尾瀬ヶ原

自然環境保護ファンド 愛称：お ぜ き こう尾瀬紀行のご紹介

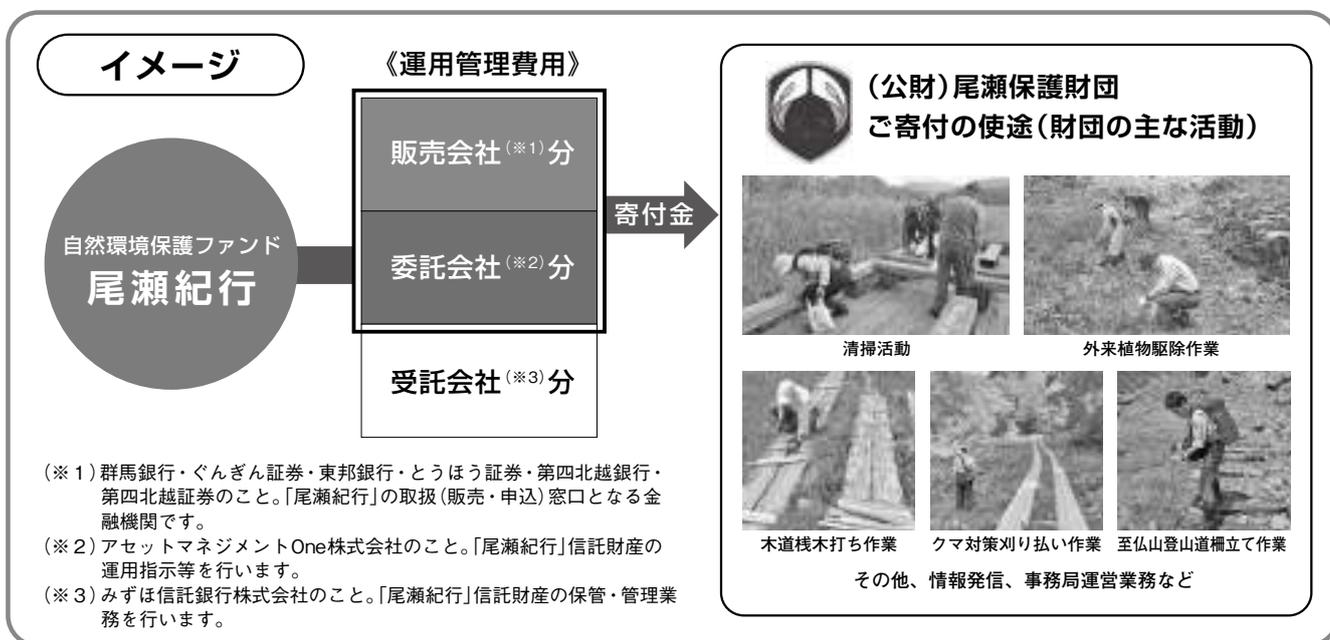
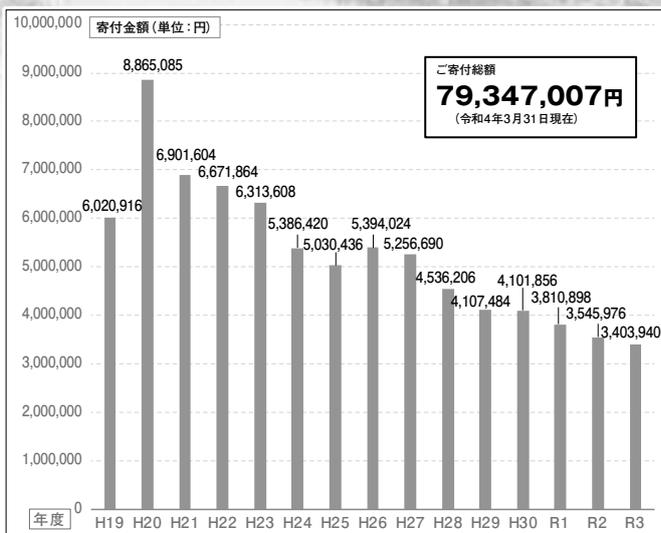
自然環境保護ファンド 愛称：尾瀬紀行（以下、「尾瀬紀行」という。）は、平成18年（2006年）に設定・販売開始された投資信託商品です。当財団では、平成19年度以降、毎年、尾瀬紀行にかかる運用管理費用（信託報酬）の一部を、販売会社様及び委託会社様からご寄付いただいております。

今号では、当該商品について、広く皆様にご紹介をさせていただきます。

「尾瀬紀行」の特色

- [1] 日本株式と海外債券に分散投資を行うバランスファンドです。
- [2] 奇数月の各5日（休業日の場合は翌営業日）に決算を行い、原則として経費控除後の利子、配当等収益および売買益（評価益を含みます）等の範囲内で分配を行います。
- [3] 実質組入外貨建資産については、原則として対円で為替ヘッジは行いません。
- [4] 販売会社および委託会社は、収受した運用管理費用の一部（それぞれ運用管理費用率のうち**0.1%程度**）を尾瀬保護財団へ寄付します。（ただし、将来的には状況によって寄付金額が変更になることがあります。）

【参考】「尾瀬紀行」ご寄付実績



商品に関する詳細は、以下、販売会社宛てお問い合わせください。

「尾瀬紀行」お問い合わせ先

- ・群馬銀行・ぐんぎん証券 各投資信託取扱店
- ・東邦銀行・とうほう証券 各投資信託取扱店
- ・第四北越銀行・第四北越証券 各投資信託取扱店



寄付のお願い

— 尾瀬保護財団では広く寄付をお願いしております —

当財団は、尾瀬国立公園において、利用者に対し自然への理解を深めるための解説活動や、適正な利用に関する普及啓発を実施するとともに、各種の環境保全対策や施設の管理運営等を行い、尾瀬の優れた自然環境の保全に寄与する活動を続けております。

■所得税、法人税、個人県民税、個人市町村民税について

尾瀬保護財団へ寄付をすると優遇措置が受けられます。詳しくは、当財団ホームページをご確認ください。

※所得税、法人税の詳細については最寄りの税務署に、県民税、市町村民税については、お住まいの都道府県、市町村にお問い合わせください。

■特別協賛寄付・協賛寄付について

企業・団体の皆様とより良いパートナーシップを築けるよう、特別協賛寄付、協賛寄付の制度を設けています。

■寄付の方法

当財団へご寄付いただく場合は、財団事務局へご来訪いただくか、ご連絡の上、以下の口座にお振込をお願いいたします。振込手数料は寄付者のご負担となりますのでご了承ください。

福島県	東邦銀行県庁支店	普通	1078095
	福島銀行本店営業部	普通	0590088
	大東銀行福島支店	普通	1287138
群馬県	群馬銀行県庁支店	普通	0515428
	東和銀行本店営業部	普通	0975531

新潟県	第四北越銀行県庁支店	普通	1182791
	大光銀行新潟支店	普通	0837334

※第四北越銀行新潟県庁支店（旧北越銀行口座）を廃止しました。お振込の際にご確認ください。

【お問い合わせ先】公益財団法人尾瀬保護財団事務局（寄付担当）

TEL：027-220-4431 Mail：info@oze-fnd.or.jp

ご寄付の受領後、領収書等を作成・送付させていただきます。ご住所及びご芳名が不明な場合、必要書類をお届けすることができません。必ず財団事務局へご一報くださるようお願いいたします。

第一生命保険株式会社群馬支社様からご寄付をいただきました。



記念撮影 ※撮影時のみマスクを外しています。

(向かって左から、第一生命保険株式会社群馬支社 菅原沼田営業オフィス長様、牟田副支社長様、野田支社長様、尾瀬保護財団 山本理事長(群馬県知事)、須田常務理事(群馬県環境森林部長兼グリーンイノベーション推進監))

第一生命保険株式会社群馬支社様から1,500,000円のご寄付を賜りましたことを受け、2022〔令和4〕年4月12日(火)、群馬県庁6階秘書課第一応接室にて、寄付受納式を開催いたしました。

同社からは、令和3年度に、特別協賛寄付として1,000,000円、また、横断幕広告型寄付〔令和5年度～令和7年度分〕として500,000円のご支援を賜りました。

「貴重な尾瀬の自然を次世代に残すために活用してほしい」という思いの込められたご支援金は、尾瀬の保護と適正利用にかかる各事業の実施にあたって大切に使用させていただきます。

改めまして、このたびのご支援に深く感謝申し上げますとともに、当財団の「特別協賛寄付者」として、今後とも、末永いお付き合いをさせていただければ幸いです。

第一生命保険株式会社 群馬支社様のご紹介

代表者：群馬支社長 野田 強(敬称略)

所在地：群馬県前橋市表町2-2-6 前橋ファーストビルディング3F <https://www.dai-ichi-life.co.jp/>

第一生命保険株式会社様は、日本初の相互会社として1902年に創業。今年で創業120年を迎えます。同社では、「安心の先にある幸せへ。」をビジョンに、社会・地域の夢や希望の溢れる未来の創造に取り組んでおり、全所属社員による地域貢献活動(各自治体等の地域課題を共有し、解決に向けた各種取組)を行っています。

特別協賛寄付者のご紹介 ※6月20日現在、五十音順、敬称略

あいおいニッセイ同和損保

MS&AD INSURANCE GROUP

あいおいニッセイ同和損害保険株式会社
通算寄付額 4,396,790円

糸井商事

糸井ホールディングス

糸井商事株式会社 通算寄付額 7,200,000円



私たちは、持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています

株式会社エコ計画
通算寄付額 6,000,000円

一生涯のパートナー

第一生命



Dai-ichi Life Group

第一生命保険株式会社 群馬支社
通算寄付額 1,500,000円

meiji

株式会社明治 通算寄付額 3,450,000円



Asset Management
One

アセットマネジメントOne株式会社
通算寄付額 39,673,504円

投資の力で未来をはぐくむ

尾瀬紀行

尾瀬紀行(信託ファンド)で収受した信託報酬の一部をご寄付いただいております。平成19年より今回が15回目のご寄付となります。

通算寄付総額 79,347,007円



群馬銀行

私たちは「つなぐ」力で地域の未来をつむぎます

株式会社群馬銀行 通算寄付額 37,101,564円*

*尾瀬紀行(ぐんぎん証券様分)、横断幕寄付、ぐんぎんSDGs私募債、株主優待制度「寄付コース」、その他財団設立当初の一般寄付を含む。



第四北越銀行

DAISHI HOKUETSU BANK

株式会社第四北越銀行

通算寄付額 7,107,054円



第四北越証券

Daishi Hokuetsu Securities

第四北越証券株式会社

通算寄付額 1,934,540円



すべてを地域のために

東邦銀行

株式会社東邦銀行 通算寄付額 14,137,245円*

*尾瀬紀行(とうほう証券様分)を含む。

協賛寄付者のご紹介

※6月20日現在、五十音順、敬称略



株式会社 市瀬

株式会社市瀬 通算寄付額 385,440円

「運ぶ」を支え、環境と未来をひらく

ISUZU

関東いすゞ自動車株式会社
通算寄付額 600,000円



クラブツーリズム株式会社
通算寄付額 1,250,000円

一般財団法人群馬県警察厚生会

通算寄付額 1,200,000円



群馬県ビルメンテナンス協同組合
通算寄付額 2,200,000円

群馬トヨペット

群馬トヨペット株式会社 通算寄付額 1,734,380円

GN群馬日産自動車株式会社

群馬日産自動車株式会社 通算寄付額 900,000円

KDDI株式会社

通算寄付額 456,700円

株式会社ジーシーシー

株式会社ジーシーシー 通算寄付額 600,000円

Smile Park
SMARK
ISESAKI

スマーク伊勢崎
通算寄付額 1,000,000円

利根郡信用金庫

利根郡信用金庫 通算寄付額 3,745,390円

このまちの笑顔をふやそう。

とりせん

株式会社とりせん
通算寄付額 2,778,562円

NICHINEN

株式会社ニチネン 通算寄付額 1,500,000円



ひかり接骨院
通算寄付額 703,000円

その他の寄付者のご紹介

※令和4年3月1日～令和4年5月31日までの寄付者、五十音順、敬称略

板橋勇人、尾崎喜一、カネコ種苗株式会社、小花光雄、林弘明、堀木紀美子、割田甚一

表紙の風景

かつて「天空の楽園」と呼ばれたアヤメ平から望む至仏山の景色。撮影日は8月13日でアヤメの葉に勘違いされたキンコウカ(アヤメ平の由来)が黄色い花を付けて見事に咲いていました。気持ちの良い高原の風を感じながら、羊雲浮かぶ青空を池塘に映してニンマリしている自分。こんな時間がいつまでも続いてくれたら良いのにとカメラを構えました。「天空の楽園」を感じていたひと時の写真。(坂上)



イベント情報

第25回NHK 「わたしの尾瀬」写真展

中之口展

- 期間
9月3日(土)～9月19日(月)
(開催期間中の休館日は9月5日、12日)
9:00～16:30
- 会場 中之口先人館 ギャラリー
(新潟県新潟市西蒲区中之口363)
TEL:025-375-1112

※予定は変更になる場合があります

尾瀬インスタグラム 投稿キャンペーン実施中!



- 応募期間 2022年6月1日～10月31日
 - 応募方法
 - STEP 1 公式アカウント(@discoveroze)をフォロー
 - STEP 2 2022シーズンに尾瀬国立公園内で写真を撮影
 - STEP 3 #尾瀬フォト2022をつけて投稿
- 詳細はキャンペーンお知らせページへ



お知らせページ
QRコード

Oze Official Instagram
@discoveroze
<https://www.instagram.com/discoveroze/>

友の会コーナー

「友の会」は豊かな尾瀬の自然を守る財団の活動を支援して下さる方々の集まりです。

※加入・更新時期は年4回(5月・8月・11月・2月)です。

※11月1日からの加入・更新をご希望の方は9月30日までに会費の納入をお願いします。

《年会費》

個人	個人会員	1口 2,000円
	家族会員 (個人会員と同居の家族)	1口 1,500円
	ユース会員 (加入又は更新時に満22歳以下)	1口 1,500円
	賛助会員 (団体・企業等)	1口 10,000円
	特別会員 (企業等)	3年に渡る30万円以上の寄付または1回100万円以上の寄付

《特典について》

友の会に加入された方には、以下の特典を提供させていただきます。

- 友の会会員バッジ進呈(初回加入時のみ)、各種資料送付
- 財団機関誌：郵送にてお配りします
- 宿泊割引：尾瀬戸倉、檜枝岐村周辺宿泊割引
(休日、祝祭日前等の除外日があります。)
- 尾瀬周辺施設利用料金割引：入浴料金割引
対象施設等の詳細は財団ホームページでご確認ください。
<https://www.oze-fnd.or.jp>

編集後記

5月下旬、休日を使って水芭蕉を見に尾瀬ヶ原に行きました。この時期の尾瀬ヶ原は未経験で、朝一のバスを戸倉で待っている時点で尾瀬のトップシーズンの賑やかさに圧倒され、鳩待峠から歩き始めると、早朝出発の方は殆どがしっかりとした装備なことに嬉しい驚きを覚えました。尾瀬ヶ原に到着し、ヨッピー橋経由で見晴まで足を伸ばしました。尾瀬ヶ原から燧ヶ岳を眺めると、山頂より少し下辺りは雪が一部谷筋に残り、中腹までは深緑、山裾に向かって新緑の青々とした緑のグラデーションが広がる様子がとても美しく印象的で、尾瀬は行く場所と時期によって、いつも新しい発見がある素敵な場所だということを改めて認識出来ました。(大澤)



OZE Mobile ● 緊急情報 ● お知らせ ● ライブ映像 など
スマートフォンサイト情報配信中

Twitter @oze_info
尾瀬情報配信中
尾瀬の情報を随時発信します

